

言語活動の充実に関する実践事例

学校名(三原市立須波小学校)

- ① 教科等 算数科 ② 学年 第2学年
- ③ 単元名 ふえたり へったり
- ④ 本時の目標 増増の場面の問題を、順に考えたり、増える数に着目してまとめて考えたりするなどして、いろいろな考え方で解くことができる。
- ⑤ 学習の流れ (1時間目/全4時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準[観点](評価方法)
1 問題場面をつかむ ・問題文の数字の意味を説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 問題 子どもが10人あそんでいました。そこへ2人やってきました。また6人やってきました。子どもは何人になりましたか。 </div>	・情景図を提示しながら、一場面ごとに問題提示し、増増の場面の問題をイメージさせる。 ・問題場面がつかめない児童には、おはじきを操作させて、おはじきで操作したように、○図を書かせる。	・図を使って「まとめて法」の考えを説明することができる。 [数学的な考え方] (ノート・行動観察)
3つの数の問題を 図をかいてとこう。		
2 自力解決をする。 ・図や式、説明をかく。	・問題文とブロック操作・式とをつなげて考えさせることで、2つの式で表しても1つの式で表しても考え方は同じであることに気付かせる。①	
3 考えを発表する。 ① $10+2=12$ $12+6=18$ $10+2+6=18$		
4 演算決定のわけを説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> $2+6=8$ $10+8=18$ は、どのように考えたのでしょうか。② </div> <ul style="list-style-type: none"> ○小集団で意見を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えたことをドット図や矢印を指し示しながら説明する。 ・分からないことは、質問する。 ○①の方法と②の方法に解き方の名前をつける。 <ul style="list-style-type: none"> ①「じゅんじゅん法」 「問題の順番の通りに計算しているから」 ②「まとめて法」 「あとから来た人数を先にまとめてたしているから」 	・友だちに自分の考えを分かりやすく伝えるために、小集団学習用の図を使って、文字や数字・矢印などを書き込みながら説明させる。 ・板書の図に、児童の説明の中から出てきたキーワードを書き込むことで、説明の手立てとさせ、それらのキーワードを使って説明させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【説明の例】あとから来たのが2人と6人なので、まず、増えた人数を先にまとめて足します。次に、始めにいた10人と増えた人数8人を足します。 </div>	
5 適用問題を解く。	・本時の学習を活かして「じゅんじゅん法」や「まとめて法」の図や式・説明を書かせる。	・ドット図をかき、「じゅんじゅん法」と「まとめて法」で問題を解くことができる。 [数量や図形についての技能] (ノート)

[言語活動の充実]

設定した言語活動を通して育てたい力

- 式を読み取り、演算決定の理由を、問題文やブロック操作・図を使って、説明することができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- キーワードを板書し、説明する手立てとする。
- 「まとめてかんがえる」よさに気付かせるために、立式の意味を考えさせる発問をする。
- 相手を意識して説明させるために、図を活用したり、順序を表す言葉を使ったりして説明させる。